

2022（令和4）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1490800404	事業の開始年月日	平成29年12月1日
		指定年月日	平成29年12月1日
法人名	株式会社 ソラスト		
事業所名	グループホーム ソラスト 富岡		
所在地	(236-0052) 神奈川県横浜市金沢区富岡西6-43-31		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員 計	9 名
		ユニット数	1 ユニット
自己評価作成日	令和4年12月27日	評価結果 市町村受理日	令和5年4月26日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当ホームは外出活動をメインに取り組んでおります。しかしながら、新型コロナウイルスの影響により、規模の大きい外出活動は制限されている為、今現在は、近隣への外出活動を中心に行っております。そんな中で、地域商店街、また地域包括支援センターで再開された催し物には積極的に足を運んでおり、入居者様から喜ばれております。また、今年は音楽療法士さんやボランティアさんの訪問も再開し、音楽レク等様々なレクに取り組んで頂いております。

コロナ禍ではありますが、これからも活動的なケアに取り組んで参ります。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和5年1月27日	評価機関 評価決定日	令和5年3月23日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は京浜急行線「京急富岡」駅から商店街を通り、徒歩にて約15分の1ユニットのグループホームです。近くには散歩に適した広い富岡西公園や催し物を見物できる地域ケアプラザがあります。

<優れている点>

事業所は「安心、安全、楽しい我が家、その人らしさを大切に、天気の良い日には外に出よう」と理念を定め、この理念に沿って入居者は近くの公園へ散歩に出掛けています。また、その人らしいあり方を大切に、人を敬い尊重する行動指針もあります。医療面では医師と看護師が連携し、訪問看護師が入居者の健康チェックを行います。安心して医療の受診や健康相談ができる体制にあります。入居時には重度化した場合の対応指針を説明し、その人らしい生活を送りながら人生の終焉を迎えることができるように入居者の思いを尊重する支援が確立しています。

<工夫点>

人材育成に関して、法人作成のオンライン動画の研修システムがあり、職員はリスクマネジメント、接遇マナー、プライバシー保護、身体拘束廃止、高齢者虐待防止などの内部研修を受講し、人材育成を図っています。年間行事計画を作成し、外出ドライブや、花見など多彩の外出支援を工夫して行っています。家族には「入居者様のご様子」と題し、病状、日中の生活面、食欲や排泄、医師からの助言や連絡を写真と一緒に送り家族の安心につなげています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム ソラスト 富岡
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	安心・安全を徹底する中で、その人らしさを大切にすることを、普段のケアの中で実践することを心掛け、コロナ禍であるが、外出等なるべく活動的に行動して頂くよう努めている。	理念は開設時に「安心、安全、楽しい我が家」などを作成し、行動指針とともにリビングに掲示しています。管理者は新入職員の研修時に説明し、職員は日頃の介護・介助の中で互いに確認し合い実践に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	日常的な散歩や買い物で地域の方たちと交流を図ったり、地域の催し物やイベント等に積極的に参加し、関りを持つよう努めている。	正月には、鎌倉の鶴岡八幡宮へ初詣で恒例の甘酒を飲んでいました。能見通西町内会に加入し、町内会主催の秋祭りでプロレス大会の観覧もしています。また、音楽療法士、将棋ボランティアの来訪や、近くの公園で焼き芋を食べるなど、積極的に地域との交流を繋げています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議等で、地域包括支援センターさんと密に連携し、高齢者に対する虐待問題や道迷いの方が発生した場合の協力体制の構築、また、そういった問題に対応するための情報交換を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議で行う、身体拘束適正化委員会及び高齢者虐待防止委員会では事例を用い、その予防策等を話し合い、日々のケアに生かしている。また、議事録はご家族及び関係者に郵送し、その報告を行っている。	運営推進会議は2ヶ月毎に開始し、構成委員は訪問看護師、富岡地域ケアプラザの職員などが参加しています。事業所の活動内容の報告や、意見交換を行い、地域情報を得て運営面に反映しています。現在はコロナ禍のため書面開催となっています。	運営推進会議には、地域代表、民生委員、入居者家族などを構成委員に加え、事業所の現状を開示し、活力ある会議となるように工夫することが期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	今年はコロナ化で実施されなかった区主催の感染症指導者研修に参加致しました。また、生保の方の入居者様が増えたこともあり、頻繁に生活支援課との情報交換の時間が増え、頻繁に連絡を取り合うようになっている。	介護保険の認定更新や生活保護者関連の相談などを金沢区役所高齢障害・支援課や生活支援課に連絡を取り運営上の相談をしています。金沢区グループホーム連絡会に参加し情報交換をしています。現在はコロナ禍のため中止しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	スタッフに対しては事業所内研修を実施している。身体拘束しない事例なども上げ、身体拘束を行わないよう取り組んでいる。また、身体拘束適正化委員会では、第三者の意見等を取り入れたりと、身体拘束を行わない形でのケアをあらゆる面からアプローチするよう努めている。	身体拘束適正化委員会では事例に基づき話し合いをしています。皮膚疾患を持つ利用者が、夜間に化膿箇所を触ってしまい悪化につながるケースについて、どうしたら拘束しないで悪化させないか、などの対応方法を検討しています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	スタッフに対しては事業所内研修を実施している。虐待事例なども上げ、どういったものが虐待にあたるのか繰り返し確認を行っている。虐待防止委員会では、第三者の意見等を取り入れたりと、虐待に繋がりそうなケアの防止に務めている。	虐待防止委員会があり、身体拘束と同時に事例に基づき話し合っています。職員は自己点検チェックシートで学び、正しい理解に努めています。	虐待防止に関するファイルも作成し、会議などの議事録を記録し共有化して虐待防止に今後も努めるように期待されます。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	毎年研修は行うが、入居者様の権利擁護に関しては、理解しているようだが、その制度となると、ピンと来ないスタッフがほとんど。その為、年金のみでは生活できず家族からの援助もない方が生活費の一部として生保を利用される場合があるが、これも立派な権利擁護制度だと説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約前に契約書及び重要事項説明書等の書類は事前に入居者様宛に送らせて頂き、内容をしっかりと確認して頂くようお願いしております。不明な点があれば直ぐにご連絡して頂くようお願いしております。契約日にも不明な点が無かったか、再度お尋ねしてから契約に進ませて頂くよう心がけております。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	毎月、写真入りの報告書をご家族等に郵送し、今現在の状況を報告している。其の上で、普段の生活での出来事に関しては勿論、事故やトラブルの場において相談事が有った場合、直ぐにご連絡し報告及び対応方法、実施方法など必ず確認させて頂くよう努めている、	家族の来訪時に声掛けし、意見や要望を聞いて運営面に反映しています。現在はコロナ禍のため入居者の病状を毎月家族に報告し、返信をもらっています。入居者から散歩にできるだけ行きたいという要望があり、実行しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフ会議や個人面談等で発言の場を設けている。また本部の担当者とも直ぐに連絡が取れるようになっている。個人面談は定期的に行われている。	管理者はスタッフ会議や朝・夕の申し送り時に職員から意見や要望を聞いて運営面に反映しています。「入居者に美味しい食事を提供すること」などを職員と一緒に話し合っています。法人エリアマネージャーが巡回時に職員から要望や意見を聞いています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	慢性的な人で不足により、就業環境は良い状況とは言えないが、派遣スタッフの採用などは現場管理者に任されており、現場単位で良い就業環境を構築できるような配慮はされている。またスタッフの給与に直接反映される加算などは積極的に取り入れるなどして給与面での環境整備にも取り組んでいる。	管理者は職員が働きやすい環境づくりに努めています。管理者は職員と面談し職場環境などを話し合っています。職員は健康診断を年1回実施し、夜勤者は年2回心身の健康維持を保つために実施しています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人で用意した研修システムや、ネット動画の研修システムを用いての研修、及び担当スタッフがその内容を学び、講師となり他のスタッフにフィードバック的に研修を行うシステムを取り入れたりと、スキルアップに取り組んでいる。	法人が作成したオンライン動画研修システムを整備しています。身体拘束廃止や高齢者虐待防止の取り組み、接遇マナー、法令遵守などの内部研修を実施し、職員の人材育成と質の向上を図っています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナ禍の現在は以前のように金沢区GH連絡会などの会合等を行われていない為、メールでの空室状況の情報交換、入居希望者の紹介などのやり取りを主に行っている。また同じ法人内ではネット環境も用いて、会議などを行っており、法人内での他のGHとは定期的に交流は行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	まずは入居者様とレクや会話などのコミュニケーションを取るよう努め、不安感や緊張感をなるべく和らげるよう努め、本音を聞き出せる環境を作り出すことを心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	何気ない会話を心掛け、穏やかな雰囲気作りを行いながら、ご家族から不安や要望等での本音の部分の話して頂くよう努め、普段から要望等を遠慮せず話して頂けるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	最初の面談の時からご本人の性格や生活状況、ご家族の思いなどから、当ホームに限らずご本人が暮らしやすい環境を提案し、希望があれば、他のサービスに繋げるよう柔軟に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人の今出来ることや意欲、習慣を尊重し、個々に見合った役割分担を提案して、家事が出来る方は家事等に関わって頂けるようにしている。スタッフは共に生活する関係として見守りしながらホームで生活をしているというスタンスを取っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	スタッフ、ご家族も入居者様をともに支える立場として、相談したり、情報交換及び共有しともに何が最適なのかを考えるなどして、話が出る関係を築いている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	普段からなじみの場所や人、それに伴い思い出話などして頂き、なじみの場所を忘れてしまわないよう心がけている。また、コロナ禍の為、限られた場所になってしまうが、出来る限り入居者様のなじみの場所に出かけるよう努めている。	入居前に住んでいた場所や、若いころ住んでいた思い出の場所へ車で出かけています。現在はコロナ禍のため中止していますが、家族と一緒に外食や墓参りなどに出掛けたり、入居者の友人や知人が来訪し居室で歓談するなどの支援もしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者様それぞれの特徴、性格、関係性を把握し、その日、その時々でそれぞれの入居者様が穏やかに過ごして頂けるように声掛け、及び支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスが終了された方は、お亡くなりになった方が殆どです。これらのご家族からの相談事は今までありませんが、もし相談事を受けた場合はきちんと対応し支援させていただきます。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関りの中でご本人の意思を把握し、穏やかに過ごして頂けるよう考慮している。意思疎通が困難な方にはその時々で表情、状態から何をされたいのか、何を訴えているのかを推察して支援するよう心がけている。	入居前の面談時に、事前に入居者の思いや意向の情報を把握しています。入居後は入居者の意思を把握出来る様に表情や反応に注意することで、利用者が穏やかに過ごせるよう支援しています。新しく知ることができた利用者の思いは申し送りノートを活用して、職員間で情報を共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	過去の生活歴や今までの生活スタイルなどを考慮し、それらを尊重し、今現在の状況において可能な限り関りを持ち、その方に必要な今までの生活歴、生活スタイルにつながる支援を心がけております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	基本的にその方の出来ることを重視し、アプローチを工夫し行っている。健康状態を把握しながら、残存機能の見極めに努め、その上で無理のない支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人の希望を踏まえた上で、ご家族、スタッフ、医療関係者等からの様々な意見や発案を検討し、現在の健康状態を照らし合わせて、実現可能な介護計画を作成している。	毎月のケア会議で、入居者の意向を確認しています。医師や看護師、歯科医師、職員、ケアマネジャーのチームで半年ごとに見直しを行っています。状況に応じて見直しを早めたり課題が出た場合も要望に応じたケアプランの作成に心掛けています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録を個別のデータとしてパソコンに入力し管理を行い、またスタッフならいつでも閲覧できるようにし、情報の共有を図っている。また、ケア内容の変更や服薬内容の変更などは全てのスタッフが確認し忘れないよう、申し送りノートを活用し、情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	入居者様の日々の状況の変化に合わせてながら、本人や家族の要望に応じ、通院援助やその方が希望された物品の購入、突然の外出介助等臨機応変な対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ禍ではあるが、きちんと感染対策を行いながら、ボランティアさんや音楽療法士さんの受け入れ、地域包括の催し物への参加、近隣の公園や八百屋への散歩、買い物など今現在等ホームで出来る範囲で地域資源との協働を行っている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力医療機関（訪問診療、訪問歯科）の定期的な訪問を受けている。専門医への通院が必要となった場合でご家族が希望される場合はスタッフが通院介助を行っている。受診記録は申し送りノートやケア会議等で情報の共有を行い、支援に繋げている。	入居者全員が、本人や家族の同意を得て、協力医療機関の医師をかかりつけ医としています。訪問診療と歯科往診は月に2回来訪しています。薬剤師や看護師も訪問し、医療連携を行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護事業所から週に一度訪問看護師の訪問を受けている。入居者様の体調面だけでなく言動などの気付きも報告し適切なケアを受けることが出来るよう助言を受けている。緊急の場合も24時間対応で入居者様の状態の相談、指示、助言を受けることが出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院に入居者様の情報提供を行っている。退院までの間は病院、ご家族と連絡を密にし、入居者様の状況を把握出来るようにしている。また退院後は安心して生活出来るよう、ホームスタッフ、訪問医療関係者などでチームとなり、ケアを行っている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に「重度化した場合における対応の指針」をお渡しし、説明し、ご理解して頂いている。ご入居者様とご家族の思いに沿えるよう医療連携を図り支援しているが、入居者様の心身の状況の変化に伴い生じる「ご本人やご家族の気持ちの変化」を大切に、その都度話し合うことにも努めている。	入居時に重度化した場合における対応について、説明をしています。看取り介護は連携医療機関とどこまでの支援を希望するかを話し合い、医師、入居者・家族、事業所と同意書を交わしています。職員は看取り介護の法人の研修を受講して支援できる体制に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時でも落ち着いて対応出来るよう、スタッフは定期的に研修を行っている。パニックを起こさず行動し判断をするにはどうすれば良いか冷静に対応出来るようマニュアル等を用い、訓練も行っている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	夜間対応の避難訓練、地震対応避難訓練を行っている。夜間対応は近隣の方の協力が必要だが、コロナ禍の為、近隣の方の参加はご遠慮して頂いている。また水消火器を使った初期消火訓練は毎回必ず行うようにしている。	消防署に避難訓練の届けを出して年2回避難訓練を実施しています。また、事業所は、町内会が開催する地域の消防訓練にも出席しています。ハザードマップや災害時による備品と食料、飲料、トイレなどで使用できる水も用意して災害に備えています。	備蓄のリストは完備しています。今後、改訂版で賞味期限についても記載し管理することが期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個々の性格や人格、認知症から来る症状の違いを理解し、尊厳を重視した対応を心掛けている。また入浴や排泄などプライバシーに配慮した声掛け、介助を心がけている。	法人は、接遇マナー、言葉遣いについて、身体拘束、虐待と同様に研修を重視しています。eラーニングも用いて、事例検討をしたり、事例により、どうするか振り返りをする研修を行っています。管理者はスピーチロックにも留意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者様それぞれの特徴、性格に沿った対応を行う。ご本人が自分の思いを表出しやすい雰囲気、環境を作り出し声掛けも工夫するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	各入居者様のペースを把握し、その日の体調や気分に合わせて配慮し、ご本人の気持ちに沿った支援を行うよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご自分で衣類を選んで着ることが出来る方は、スタッフはそれを尊重し主観で助言しないように心がけ、またご自分でなかなか選べない方は、着て頂く前に必ず見て頂き、ご本人に確認してから着て頂くよう努めている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	嚥下が不安な入居者様に対しては食べやすいよう刻みや、水分にトロミなどを入れるように提供している。月に2回はお弁当の日を設け、好きなものを召し上げて頂くようにしている。食事の片付けに関しては、入居者様と一緒に食器洗いや食器拭き等に取り組んで頂き、スタッフとの協働の形を取っている。	入居者の趣向に合わせて2社の給食業者と契約しています。職員は入居者に合わせたきざみ食やミキサー食を対応したり、食が細い入居者には処方により、経腸栄養剤を提供しています。月に2回「お弁当の日」を作り、寿司や豪華な弁当で食事を楽しんでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個々の状態、食欲などを見極めながらバランスを考慮し、タイミングを見て普段の食事の量やカロリー捕食を含め全体量のバランスを考えて無理強いすることなく支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後は必ずその方にあった方法でその方の状態に合わせて口腔ケアを行っている。その際、出来ないことは無理強いすることなく、またタイミングも見て実施するよう心掛けている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの排泄感覚や習慣を把握しその方の状態に合わせた排泄介助を行っている。日ごろから個々の表情や動きにも着目し、タイミングを見て声掛けをするなどしてトイレにて排泄できるよう支援している。	すべての入居者は、トイレでの排泄を基本として対応しています。日中はリハビリパンツを使用して、入居者の個々の排泄パターンに基づくトイレ誘導を行います。ポータブルトイレが必要な場合は、事業所が用意して個別対応により支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	一人ひとりの排便感覚を把握し大根おろしやヨーグルトを取り入れるなどして工夫を行っている。自然排便が出来るように水分摂取量の確保や運動量を増やすなど個別に対応している。便秘傾向の方には協力医療機関と相談しながら下剤等を使用している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	本人の希望を出来るだけ優先し、タイミングを見て、臨機応変に対応している。また、どうしても湯船につかりたくない方は無理強いすることなくシャワー浴に切り替えている。入浴後にビールが飲みたいと言われる入居者様にはノンアルコールを提供し、入浴の楽しみを感じて頂くように努めている。	入浴は週2回としていますが、入居者の都合を尊重して臨機応変に対応しています。季節を感じてもらうためにゆず湯やしょうぶ湯にしたり、入浴剤も使い温泉気分を堪能できるようにしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	就寝時間は個々の生活リズムに合わせて援助を行っている。就寝前には排泄介助を行い、寝巻に着替えられる方は着替えて頂き、眠りに付きやすい環境を整え、安眠につなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬に関してはスタッフのダブルチェックを徹底し、誤薬を防ぐよう取り組んでいる。変更があった場合は申し送りノートを活用しスタッフ間で確認、把握している。服薬変更時などに症状の変化があった場合は直ぐに医療職に報告し、対応出来るよう心がけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	生活の中で役割を見つけ、その中でやりがいを持って頂けるよう工夫している。普段行っている家事等には出来る方は積極的に参加して頂きその中で楽しみを見つけたり、ボランティアさんとのレクに参加して頂き、そういったレクに楽しみを見つけて頂くよう支援を行っている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日は、少人数であっても近隣の公園や八百屋さんへの買い物、また地域賦活支援センターで行われるコンサートなどにも毎月お連れしている。地域でお祭り等のイベントが有る時などは必ず出かけるようにしている。	散歩を担当する専門の遅番職員の体制を作り、事業所理念の「天気の良い日は外に出よう」を実施しています。コロナ禍により感染症予防対策として、今は近隣の散歩や、近くの公園、買い物に出かけます。最近では町内会主催のプロレス巡業を見物しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族に確認し、ご本人が管理できる範囲の現金を持って頂くことは可能なので、出来る方は所持して頂いている。またご本人がお金をお金を使いたいときに支援することによって、ご本人の満足度に繋げている。ただし、認知症がある為、ご本人が使う前に紛失してしまう場合もあるので、そうならないよう、支援する場合も		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご自分で電話を掛ける機会は少ないが、家族などからの電話に関しては、ご本人に御繋ぎして、ゆっくりとご家族との会話を楽しむことが出来るよう心がけている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ホーム内の清掃は必ず毎日行い清潔を保つよう心掛けている。また夕方には西日が入るので、入居者がまぶしさを訴えないよう、遮光には気を配っている。またリビングの温度、湿度管理を温度湿度計を設置し、細かく行っている。	1階は、広々として落ち着いた雰囲気のある共有部分になっています。毎日のラジオ体操や、歌を歌うなど、楽しくリビングで過ごせるように工夫しています。加湿器を設置し皮膚乾燥に留意しています。壁面には外出したときの写真や、季節の感じられる四季の絵を飾り、入居者がくつろげる場所となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングでの各入居者様の席はご本人が居心地が良いと感じられた席に座って頂き、食事等を摂って頂くように配慮している。基本的に仲の良い方で同じテーブルを囲んで座って頂くよう促しを行っている。またソファで居眠りをしたい方は自由に座って頂き、休んで頂くよう配慮している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人のなじみの家具や小物を置いたりして頂き、ご自宅のように過ごして頂くよう促しを行っている。それにより安心して居心地よく居室で休んで頂けるよう努めている。	職員が見守りカメラで安心安全に努め、利用者は1階リビングと2階の居室間をエレベーターで自由に往来しています。自宅から使い慣れた家具を持ち込んでいます。ベッドも備え付けですが、使い慣れたベッドを使用している人もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	自立歩行が出来る入居者様は今できる事を少しでも維持し続けられるよう、リビング等の手すりや手がかりになる椅子や家具を配置し、歩きやすいよう工夫するよう努めている。		

令和4年度

目標達成計画

事業所名 グループホームソラスト富岡

作成日： 令和5年4月23日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議において、現在はコロナ禍の為に、少人数で開催している為、活力のある運営推進会議とは言えないのではないか。	コロナが落ち着き、ホーム内の乗客制限を緩和し、構成委員の参加人数を増やす。	コロナが2類から5類に変更に成った後、乗客制限を緩和し、ご家族及び関係者へ運営推進会議の開催通知を送り、参加人数を増やし、活力ある運営推進会議となるよう努める。	2ヶ月
2	7	虐待防止委員会のファイルが身体拘束適正化委員会のファイルと一緒にしている為、虐待防止委員会の議事録等を閲覧するとき、混乱するのではないか。	虐待防止委員会のファイルを新たに作成し、会議の議事録等を記録し、虐待防止委員会の単独のファイルとし共有化する。	虐待防止委員会の新たなファイルの作成。	2ヶ月
3	35	災害用に備蓄されている食料の賞味期限が備蓄ファイルに記載されていない。	備蓄食料の賞味期限の確認。	災害用食料は半年ごとに賞味期限のチェックを行う。	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月